

多賀デザイン・カレッジ大滝キャンパス 大滝小学校「総合的な学習（1学期）」と連携しました

2016年6月1日(水)、滋賀県立大学が「地(知)の拠点整備事業」の一環として展開している「地域デザイン・カレッジ」が、多賀町にて「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」として設立されました。

多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス

●活動内容：多賀町大滝地域を対象とし、下記項目などに取り組みます。

- (1) 特色ある教育環境づくりおよび地域人材の育成に関する事業
- (2) 地域資源を活かした／地域課題を解決する産業創造に関する事業
- (3) 情報発信に関する事業
- (4) その他「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」の目的を達成するために必要な事業

●活動拠点：多賀町立大滝小学校
(滋賀県犬上郡多賀町川相 568)

- 平成 28 年度事業 運営委員構成団体
- ・大滝小学校
 - ・多賀町教育委員会事務局
 - ・多賀町地域整備課
 - ・多賀町企画課
 - ・滋賀県立大学地域共生センター

【日程】

- 第1回 5月24日(木)
KJ法を知る
 - 第2回 6月8日(水)
地域の方を招いた授業
 - 第3回 6月14日(火)
実際に地域を歩いてみる
 - 第4回 6月21日(火)
町歩きで見つけたことを整理する
 - 第5回 6月29日(水)
フィッシュボーン形式の整理手法を使い検討する
 - 第6回 7月6日(水)
活動を振りかえり、何を残していきたいか考える
 - 第7回 9月26日(月)
プレゼンテーションについて学ぶ
 - 第8回 10月3日(月)
発表内容を深める・考える
 - 第9回 10月7日(金)
プレゼンの構成を考える
- 【授業後の取り組み】大滝PR動画の制作発表
- 10月6日(金)
インタビューのレポート文章を作る
 - 10月28日(土)
大滝小まつり

今年度も事業の一環として、本学地域共生センター 鵜飼修准教授の指導のもと、6年生の子どもたちの総合的な学習の時間において地域診断法の授業を実施しました。

4地区合計6グループに分かれた児童14名が、全6回の授業を通して地域の大人からのヒアリングやまちあるきを行い、「自分たちの住んでいる地域において、何を未来に継承したいか」について考えました。

第1回 5月24日(木) KJ法を知る

まずは鵜飼准教授より挨拶があり、地域診断法について、「地域の未来について考えるためには、まず地域の良いところを発見することが大事である」と説明がありました。

次に、地域診断法ワークショップ(以下WS)で重要な「要素のつながり」を導き出すための思考法「KJ法」について説明しました。鵜飼准教授は、「皆さんは何と、誰と繋がっていますか？」という問いかけをしながら、連想ゲームの要領で人と家族、家族と地域、地域と日本、日本と世界、世界と地球というつながりを例に出し、物事は必ず何かをつながっていることを

示しました。その後、実践として付箋とプロッキーを使い、「自分の好きなこと・もの」というテーマでグループごとにKJ法の練習をしました。初めてKJ法を体験した児童らでしたが、要素が多く出され、分類もスムーズに行っていました。

第2回 6月8日(水) 聞き取りをする

第2回目から、鶴飼准教授に変わり、担任教諭が地域診断WSを進めます。今回は地区ごとに住民を招き、児童らがインタビューをしました。

挨拶ののち、児童らは地区ごとにグループで別れ、事前に考えてきた質問をしました。「地域の自慢したいところは何か」「昔はどんな遊びをしていたか」「昔と変わったところと、今も変わらないところはどこか」「人口や面積はどれくらいか」など細かい聞き取りをしました。その後、インタビュー内容を前回習ったKJ法で整理し、皆の前で発表しました。

授業終了後は、地域の方も交え、グループごとに給食を食べ、交流を深めました。



第3回 6月14日(火) まちあるきをする

第3回目は、地元住民案内のもと、各地区のまちあるきを行いました。ルートについては、昨年度の授業で歩いたコースを元にしました。

今回は、児童、地元住民の他に、本学から「地域診断法」の授業を学んだ学生や「近江環人地域再生学座」を受講する院生・社会人受講生8名が「ヨソ者」として参加しました。「ヨソ者」の視点で地域を歩くことにより、WSに新しい気づきや発見を取り入れることが狙いです。

ヨソ者を地区ごとにグループ分けをした後自己紹介をし、交流をしながらまちあるきを行いました。立ち寄った先のスポットで、地元住民から説明を受け、児童らは熱心にメモをとっていました。



学校へ戻ってからはまとめの時間。

「〇〇地域はこんなところ」というテーマで、ま

ちあるきで感じたり、教わった内容を付箋に書きだし、KJ法を用いて模造紙に島(グループ)を作り、島の分類を表すキャッチコピー(キーワード)をつけ情報を整理しました。

まちあるきで集めた情報が次々に付箋に書き出されました。昔の建物、風景が美しいスポットから地区の面積、人口などの具体的な数字まで数多くの要素が上がりました。



第4回 6月21日(火) つながりを考える

前回のまちあるきを経てまとめたキーワードのつながりを考えました。キーワード同士がどのような内容でつながっているのか改めて考え、地域を形作っている重要な要素を明らかにしました。児童らは周りの先生の手や他のグループを参考にしながら、キーワードどうしのつながりを確実に見つけました。



第5回 6月29日(水)

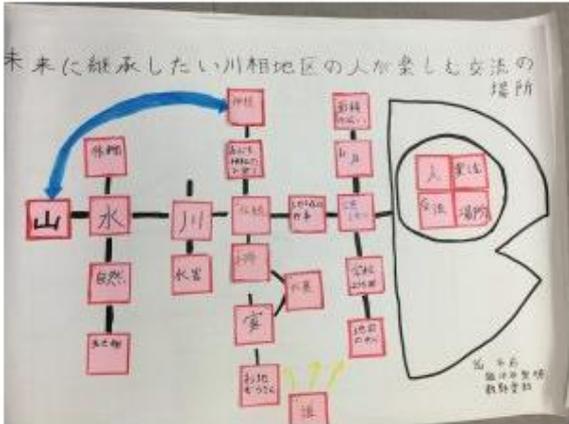
フィッシュボーンを作り地域の未来に継承したいもの考える

キーワードどうしのつながり考えた前回。今回は、キーワードを一旦分解し、フィッシュボーンの形に再構築しました。重要なキーワードが背骨を形成し、あばら骨の部分はそれに付随する別のキーワードがつながります。

頭の部分には、「地域の未来に継承したい〇〇」の〇〇を入れ、魚の形が完成します。

児童らは前回からキーワードどうしのつながりを見つけるのに苦労していましたが、先生らの指導やサポートもあり、全員フィッシュボーンの形にま

とめることができました。



第6回 7月6日(水) 活動のふりかえり

地域の未来に継承したいものを見つける、地域診断法ワークショップ最後の授業となりました。

今回は振り返りワークシートに自分の字の特徴とその理由をまとめ、一人一人発表し、質問や感想をお互いに発表しました。

発表内容では、今までの地域診断WSを通して考えた未来に継承したいものを元に、児童らが思う特徴を発表し、それに対して「自分の字とこんなところが違った」などの感想が寄せられました。



るが違った」などの感想が寄せられました。

授業の最後には、鵜飼から最後のコメント。「これから大滝に残る人、大滝を出る人、いろいろな道を選択すると思うが、大滝を出た時に、全国に向けて大滝を紹介して欲しい。」というメッセージで締めくくりました。

大滝小まつり発表に向けての取り組み

「大滝の魅力を発信する」PR動画の作成

地域診断WSの成果は、「大滝小まつり」という小学校の催しにて発表しました。

今年度はびわ湖放送株式会社の協力を得て、大滝地域の魅力を発信するPR映像を児童らが中心となり作成しました。

10月6日(金)

インタビューのレポートの文章を作る

PR動画は、地域ごとに様々なシチュエーションで住民の方にインタビューを行い大滝の魅力をレポート風に伝えるという構成です。当日はびわ湖放送株式会社の岩井氏の指導を受けながらレポートの台本作りを行い、PR動画に使うシーンの一部撮影を行いました。

レポートの台本作りでは、今までWSで児童たちが分解、再構築してきた地域の魅力をベースにレポートの文章を作りました。「相手に話しかけるような気楽な感じで」「肩の力を抜いた感じに」などのアドバイスを受けながら、レポートの文章を考えました。

続いて体育館に移動し、地域住民30名と撮影。



児童監督の元、映像の最後に使われる地域住民からのメッセージシーンを撮影しました。

10月28日(土)大滝小まつりでの発表

大滝小まつりは、全学年が総合学習や生活科の学習で学んだことを保護者、祖父母に向け、ステージ発表やブース展示を行う催しです。

学校長の挨拶の後、1年生から順に、展示紹介の発表を行い、各学年ユニークなステージ発表を行いました。

そして最後に6年生から地域診断WSの成果発表と完成したPR動画のお披露目がありました。まず、児童らは地区ごとに別れた合計6グループから、継承したい地区の未来をそれぞれ発表しました。



【成果発表】

1.グループごとの発表

(川相地区と富之尾地区は2班に別れ発表)

-富之尾地区 A班

-一ノ瀬地区

-川相地区 A班

-萱原地区

-富之尾地区 B班

-川相地区 B班

2.PR動画のお披露目会

3.一人一人の宣言

1.富之尾地区 : 農業で生まれる協力を未来に継承したい

富之尾の自慢できるところを、「行事が多いところ」「農業を協力して行っているところ」と挙げ、行事や農業を協力することで、人との繋がりを深め、地域を守る心を持っている地域であると紹介しました。



2.一ノ瀬地区 : 自然を利用して協力する暮らしを継承したい

一ノ瀬を、「行事や普段の生活の中で人との繋がりを深めていく地区」と紹介し、一ノ瀬の自然を工夫してみんなが有効に利用し暮らしてきたことが心の繋がりに結びついているのではないかと発表しました。



2.川相地区 : 人が楽しめる交流の場を継承したい

川相は大滝の中心地であり、地域の人と協力する行事や、人が集まる憩いの場があります。人が集まる場所や歴史があることで、川相は元気のまちとして続いてきた、と発表しました。



3.萱原地区 : 地域の人と協力して暮らしと自然を守るを継承したい

萱原はおしどり、自然、行事、笑顔を大切にしてきたところであると紹介し、自然を守る暮らしを継承していきたい、と発表しました。



最後に大滝の魅力を発信するPR動画をお披露目しました。児童らがレポーターとして、大滝の各地区の良いところをレポートしたり、地域住民にインタビューをする、大滝の魅力がふんだんに紹介され

ている PR 動画でした。大滝小学校出身の楽天イーグルスの則本選手からのメッセージもあり、見応えのある内容です。

放映後、児童らは「大滝愛」を宣言しました。
「行事に積極的に参加していきたい。」
「大滝が好きであることを忘れない。」
「大滝にずっと住み続けたい。」
「地域の人を大切にすることを持ちて笑顔でいたい。」
などを一人ずつ自分ができるところを堂々と宣言しました。発表後は大きな拍手に包まれ、涙ぐむ保護者もあり、感動のうちに6年生の成果発表が終わりました。

展示紹介の発表終了後、各学年は体育館内に設けられたブースにてそれぞれの展示紹介を行いました。6年生のブースでは、WSのステップ6で制作したフィッシュボーンや、地域に関するクイズ、地区ごとの見所パンフレットなどを展示、配布していました。

今年で2年目となる地域診断WSの授業。5ヶ月の間でしたが、児童たちはWSを通して大滝と向き合いました。短い期間の中でも大きな成長が感じられた成果発表でした。



制作した PR 動画は、今後 SNS 等を通じ全世界へと発信予定です。